

季刊

社会福祉法人
名古屋市総合リハビリテーション事業団

オレンジロード

ORANGE
ROAD

2015年
秋号
vol.7

INDEX

- ◆全国障害者スポーツ大会
- ◆市民公開講座
- ◆職員研修の取り組み
- ◆業務研究等事業の中間報告
- ◆障害福祉専門官講演会
- ◆総合リハビリテーション賞受賞
- ◆イベント情報
- ◆募集・事業所案内

発行：季刊オレンジロード編集委員会



全国障害者スポーツ大会 (2015紀の国わかやま大会)

10月24日（土）から
26日（月）の3日間、和歌山県で
第15回全国障害者スポーツ大会が
開催されました。



この大会は、毎年、国民体育大会の後にその開催県で行われているものです。

参加対象は、身体障害者、知的障害者、精神障害者（バレーボールのみ）で、個人競技6競技（陸上競技・水泳・卓球・アーチェリー・フライングディスク・ボウリング）、団体競技7競技（車椅子バスケットボールなど）が実施されました。

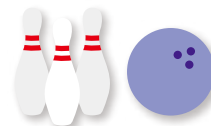
名古屋市選手団は、選手43名、役員24名、合計67名の選手団を編成し、名古屋市障害者スポーツセンターの職員も役員として同行しました。

開閉会式の会場（紀三井寺公園陸上競技場）は、周辺に多数の臨時駐車場があり、移動距離も短いため、選手の負担が少ない環境となっていました。

大会2日目は、強い寒風の中での競技で、選手の体調管理が難しいところ、役員全員でサポートし、全競技を終えることができました。

この大会では、27個のメダル（金10、銀10、銅7）を獲得することができ、多くの選手が、自己ベストを更新するなど、健闘する姿が印象的でした。

大会公式サイトではさまざまな情報が掲載されています。ぜひ一度ご覧ください。



市民公開講座

平成27年10月28日（水）に、リハビリテーションセンターで看護部による市民公開講座を開催しました。この講座は「地域に暮らす人々への健康管理に関する情報提供と、当センターが身近な存在となるようアピールする機会」として、今回初めて開催したものです。

第1部は、脳卒中リハビリテーション看護認定看護師による「脳卒中予防のための水分摂取の方法」の講演を行いました。脳血管の模型を見せて説明したり、水分の取り方として参加者に「ちょこちょこ飲み」を体験していただいたりしました。また、参加者に手作りのプレホスピタル脳卒中スケールをお渡ししました。

第2部は、専門職種（医師、看護師、理学療法士、栄養士）による健康相談を行いました。話しやすいようパーテーションで区切り、花を飾りました。また、薬剤師が待機し相談に備えました。

参加者は、1部2部計72名で、内訳は、当センター入院患者ご家族、介護施設の施設長、保健師、在宅支援施設職員、ケアマネージャー、地域の方でした。

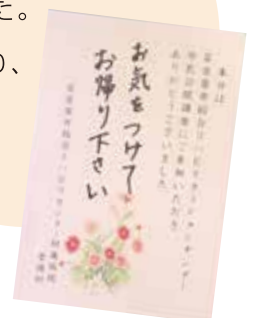
終了後の参加者アンケートは、全体的に好評で「具体的な説明で分かりやすかった」などたくさんの感想をいただきました。

今回の講座で、当センターの持っている知識や技術について、参加者に情報提供できたと考えています。また、地域の方々等が「施設を見学したい」「介護の方法を教えてください」「介護の苦勞を聞いてほしい」という希望を持っていたり、今後の介護の必要性を本気で考えていることが分かりました。

この講座で、私たち看護師は、他職種と協働して、強力なチームワークの下で患者さんや地域の方々の持つ問題

（健康や老後に関する不安等）の解決を図っていかねばならないことを再確認しました。

地域の方々が自らの健康の問題を知り、それに立ち向かう主体的な姿勢や取り組みを支援できるように、看護師も広い視野を持ち実力をつけていくことが期待されていると考えています。



職員研修の取り組み

●共通研修の取り組み



事業団の共通研修（階層別研修）では、人材育成部会作業部会Ⅱが中心となり、上の階層の職員がその下の階層の職員研修を企画・運営するという取り組みを行っています。

今年度も、若手・中堅職員Ⅰ研修受講者が、新人職員研修（医療部門、福祉部門紹介）を、中堅職員Ⅱ研修受講者が、若手・中堅職員Ⅰ研修（オレンジ・サロン）を企画・運営しました。

新人職員研修（医療部門、福祉部門紹介）

この研修は、企画者である若手・中堅職員Ⅰ研修受講者が春に受けたプレゼンテーション研修の実践の場でもあります。リハビリテーションセンターの医療・福祉部門について、支援の実際の場面や流れをイメージしやすくするため「体験を入れる」「事例を入れる」という工夫をして紹介しました。受講した新人職員からは「患者さんに他部門のことを説明しやすくなった」という意見が多くあり、大変好評でした。



若手・中堅職員Ⅱ研修（オレンジ・サロン）

この研修は、企画者である中堅職員Ⅱ研修受講者が春に受けたファシリテーション研修の実践の場でもあります。今回は「これは困った！一緒に考える困難事例」とし、コミュニケーションで困った事例についてグループワークを行いました。グループワークのあとは、先輩である中堅職員Ⅱ職員から、どんな視点で考えたらよいか、どんなことに気を付けるとよいか、受講者に伝えました。



企画する職員は、研修当日まで何度も打ち合わせを行い、研修目的やテーマを話し合い、資料等の準備をしています。事業団の全部門の職員が集まる共通研修という機会を生かし、他部門の職員と一緒に考えたり話し合いをしたりすることが、事業団の特徴である「一貫したサービスの提供」をさらに実現していくきっかけになるよう、引き続き取り組んでいきたいと考えています。

業務研究等事業の中間報告

平成27年11月9日（月）に、リハビリテーションセンターで、平成27年度業務研究等事業の中間報告会を行いました。この事業は、質の高いサービスを提供する基盤となる研究等を推進し、職員の職務能力等の向上を図るために行っているものです。今回は、4人の職員が報告を行いました。



①PET-GAS定量検査における視野外放射線に対する体幹部シールドの効果検証

（放射線診断科 林絵美）

更新されたPETカメラでは、放射性ガスを使った検査の際に、ガスを吸入した肺や心臓の周辺から出る放射線がノイズ源となる可能性があるため、鉛のシールドを設置している。このシールドの有無による画質への影響を検討する。検証の結果、マスクの構造によりPET画像作成時に別の計算エラーが発生することが判明した。今後は、マスクを模擬したファントムの形状・位置・放射能濃度の検討が必要である。

②当院でのHANDS療法の効果検証

（作業療法科 神戸久美）

ボトックス投与患者に対し、上肢の電気刺激を行うHANDS療法を行い、効果を比較した。検証の課題として、重度の麻痺がある患者に対し、病棟での麻痺側上肢の使用を促進するため、自主訓練等の働きかけが必要であることが分かった。

③回復期リハビリテーション病院における併設事業の実態調査 その2

～訪問調査による地域ニーズの解明～

（生活支援課 平野尚孝）

回復期病院22病院に対し、患者の介護保険サービスの利用状況や当センターとの連携等について聞き取りを行った。患者のうち9割は退院後に介護保険サービスを利用しており、関係者・家族は障害福祉サービスについての知識・情報が少ないことが分かった。また、当センターの情報が届いていないため、定期的な訪問による情報提供が必要であることが分かった。

④頭部MRI画像の各種標準化法の比較

（企画研究室 日比野新）

現在、PET画像の解析では、脳のMRI画像を“標準脳”にあわせ、対応するPET画像上の数値を計算する作業を行っている。“標準脳”にあわせる標準化の精度がソフトにより異なるため、標準化の検討が必要であること、標準化の精度が脳の部位ごとに異なる可能性があるが自動的に部位を判別することが難しいこと、が課題として挙げられる。

障害福祉専門官講演会

平成27年11月6日（金）に、リハビリテーションセンターで、伊藤未知代氏（厚生労働省社会・援護局障害保健福祉部障害福祉課障害福祉専門官（精神障害担当）・地域移行支援専門官）を講師にお招きし、講演会を開催しました。

講演は「障害者の地域移行・地域定着支援と障害者施策の動向」として、地域移行促進の取り組みの課題や、障害者総合支援法3年後の見直しなどについて、お話しいただきました。今回の内容は、障害者基幹相談支援センターや高次脳機能障害者の支援の取り組みに生かしていきたいと考えています。

参加者は、当事業団と関係機関の職員の約80名でした。



総合リハビリテーション賞受賞

作業療法科長 田中 創さん

平成27年9月29日（火）に『第23回総合リハビリテーション賞』授賞式（東京 医学書院本社）に出席しました。

この賞は、雑誌「総合リハビリテーション」の掲載論文のうち最優秀論文に贈られるもので、我々の論文「高次脳機能障害者の自動車運転における行動特徴と機能特性」が平成26年度の最優秀論文に選ばれました。

この研究では、被験者として多くの職員やワーキングメンバーの親族の方にご協力いただきました。多数症例の比較研究が賞につながったと思います。

当科では、4つの研究ワーキンググループ（自動車運転、HANDS療法・ボトックス治療、高次脳機能、心臓リハビリテーション）を作り、チームで研究活動を行っています。今後も、仲間と力を合わせて研究活動を推進していきたいです。



11月19日に、当事業団総合リハビリテーションセンター長 白井智之氏が逝去いたしました。

白井センター長には、事業団がリハビリテーション・障害者福祉の中核施設としての役割を果たせるよう、とりわけ研究活動の推進にご尽力いただきました。なお、本誌創刊号から本号までの表紙の写真は、すべて白井センター長が撮影したものです。

白井センター長のご遺志を継ぎ、職員一同さらに業務に邁進するとともに、心よりご冥福をお祈り申し上げます。

イベント情報

●スポンディスクドッチ大会

日程：平成28年1月24日（日）

●第34回東海身体障害者インドア・アーチェリー大会

日程：平成28年2月14日（日）

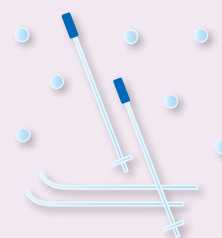
●第9回障害者スキー体験会

日程：平成28年2月28日（日）

対象者、申込方法等詳細は事業団ウェブサイトまたは下記問い合わせ先へ。

問合：名古屋市障害者スポーツセンター

電話：052-703-6633 FAX：052-704-8370



●地域介護者教室「運動で健康力アップ」

日時：平成28年1月13日（水） 13:30～15:00

場所：なごや福祉用具プラザ

●地域介護者教室「押し花アート体験と便利な福祉用具の紹介」

日時：平成28年1月15日（金） 13:30～15:30

場所：なごや福祉用具プラザ

じよくそう

●褥瘡講座「目からウロコの床ずれ予防」

日時：平成28年1月16日（土） 10:30～17:00

場所：なごや福祉用具プラザ

●家族介護者教室「自宅で安心して暮らすために」

東部・東部・北部・西部・南部・中部で実施。各4回。

対象者、申込方法等詳細は事業団ウェブサイトまたは下記問い合わせ先へ。

問合：なごや福祉用具プラザ

電話：052-851-0051 FAX：052-851-0056



事業団ウェブサイト

<http://nagoya-rehab.or.jp>

事業団職員大募集

「私たちと一緒に働きませんか」

▶ 現在募集中

正規職員 作業療法士

嘱託職員 生活支援員補助、体育指導員

お問い合わせ先

社会福祉法人名古屋市総合リハビリテーション事業団

総務部総務課 採用担当

〒467-8622 名古屋市瑞穂区弥富町字密柑山1番地の2

電話番号 052-835-3811

最新の募集情報、待遇の詳細は事業団ウェブサイトをご参照ください。

事業団ウェブサイト <http://nagoya-rehab.or.jp>



事業所案内

・名古屋市総合リハビリテーションセンター

・福祉スポーツセンター

・障害者就労支援センター めいりは

〒467-8622

名古屋市瑞穂区弥富町字密柑山1番地の2

電話：052-835-3811 FAX：052-835-3745

・瑞穂区障害者基幹相談支援センター

・地域活動支援センター つきみがおか

〒467-0035 名古屋市瑞穂区弥富町月見ヶ岡5

NTT西日本八事ビル1階

電話：052-835-3848 FAX：052-835-3743

なごや福祉用具プラザ

〒466-0015

名古屋市昭和区御器所通三丁目12-1

御器所ステーションビル3F

電話：052-851-0051 FAX：052-851-0056

名古屋市障害者スポーツセンター

〒465-0055

名古屋市名東区勢子坊二丁目1501番地

電話：052-703-6633 FAX：052-704-8370

西部リハビリテーション事業所

〒453-0855

名古屋市中村区烏森町六丁目298番地

電話：052-486-2400 FAX：052-471-3710